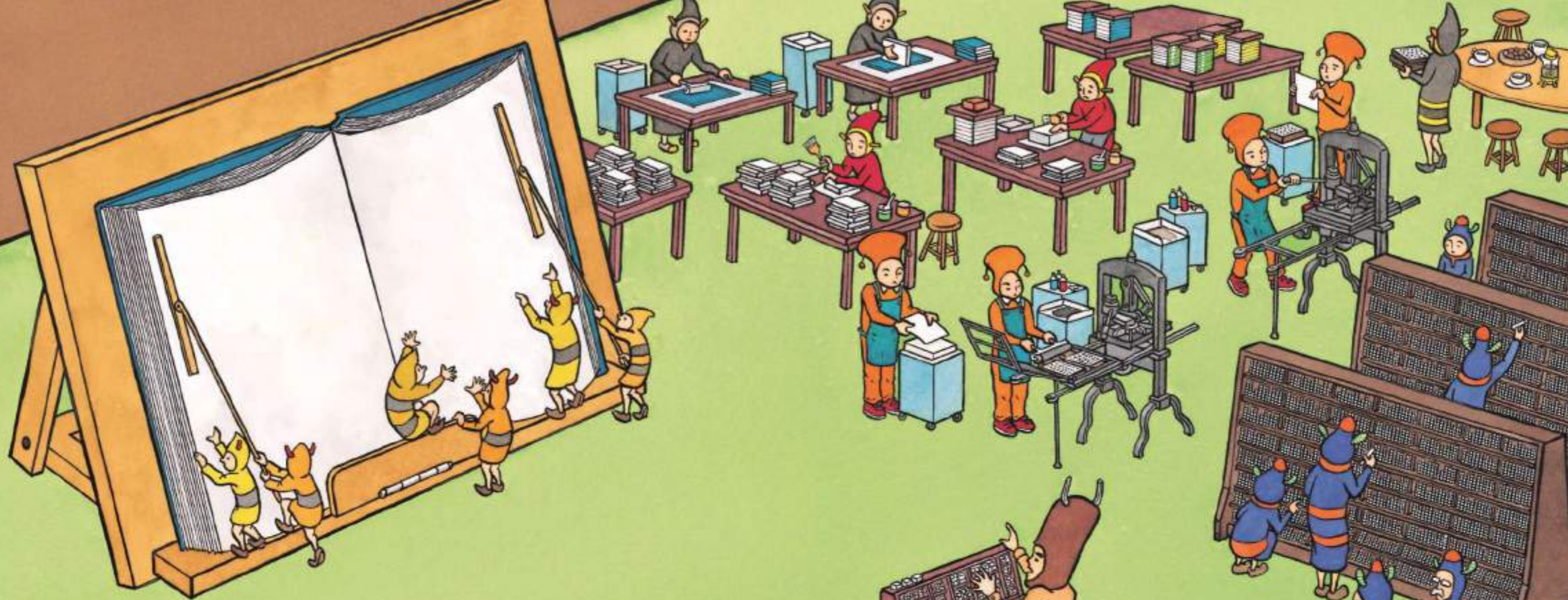




メモリの書

メメちゃんたち ほんのむしは、
“おおきいほん”の ほんだなに すんでいます、
よむのは “ちいさいほん” なのです。
「ちょっとずつなら ひっぱりだせるのよ。
でも、ひとが きたら、かくれないと いけないでしょ。
すると、なんどやっても いつのまにか もとどおり」
「“ちいさいほん”を よめば いいじゃない」
「わたしの ほんだなには ないんだもん。
ナナちゃんの ところにないかな」



トトの しごとばは、スチールだなの っかいでした。
“おおきいほん”を、からだの おおきな ほんのむしが、
これまた おおきな こえで よんでいます。

「トトさーん」と メメちゃんも
おおきな こえで よびました。
「なんだい、しごとちゅう なんだけど」
「ムムおじさんに
おしえて もらったんです」



「それなら しかたないな」
トトは みんなに
「ちょっと、きゅうけい」と いいました。



ふたりは、
ほんだなを なんだんも
のぼって きました。
さっきまで いた
ばしょを みおろすと、
めが くらみそうです。

